

2023年11月 JICA 月次レポート

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

<活動状況>

1. ラジオトークショーの実施
2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
3. 対象校間の学び合い交流会の実施
4. 対象校においてモニタリングの実施
5. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）

1. ラジオトークショーの実施

ムベンデ県では11月24日にチバリンガ準郡のLuna FMより1時間のラジオトークショーを実施した。生地などの材料不足が継続的に課題となっていることから、保護者に向けて学校での布ナプキン作製活動に必要な材料の提供への協力や、ナプキンがないことを理由に学校を欠席することがないようにサポートすることを呼びかけた。また、生徒たちに対してはプロジェクトを継続していくためにも交流会で学んだことを実践していくように、ラジオのリスナーに対しては長期休暇前の生徒たちが月経時の衛生管理を実践しやすい環境づくりへの協力を呼びかけた。

ワキソ県では11月27日19時～20時にTiger FMより1時間のトークショーを実施した。SORAK代表は事業の概要やこれまでの成果を伝えた後に、保護者に対して子どもたちが教育課程を修了する機会を与えるように呼びかけた。これは勉強を中断し、縫製の技術を身につけさせることに集中することを希望する保護者がいたためである。代表はまた、事業の実施において協力的であった対象校に感謝を伝えるとともに、長期休暇中も月経時の衛生管理において子どもたちをサポートしていくように保護者に要請した。



Tiger FM でラジオトークショーを行う SORAK 代表

ブタンバラ県では11月10日にVoice of Butende、Voice of Kikambweより1回ずつ、計2回のHappy-padの広報を主な目的としたラジオトークショーを実施し、主に「体の変化や生殖、月経についての教育は何歳からが適切か」について議論した。VOTUのチームリーダーは、初潮を迎える年齢が早ければ8歳未満、遅ければ16歳以上であるように、思春期の変化を感じ始める年代の差について地域住民に説明し、

保護者や教員へも子どもの成長を気にかけるように呼びかけた。Atala 氏（スタッフ）は子どもが自信を育み、悩みを打ち明けられるようになるには、できる限りフレンドリーな環境で子ども達と接する必要があることを訴えた。

周囲の大人が話題に対し内向きで情報提供しないために、多くの女子生徒は胸が大きくなったり、陰毛が生えたりするなど身体の変化が現れる際に孤独や恐怖を感じてしまうのだと Voice of Butende の司会者は指摘した。また Atala 氏は、妊娠や退学などを引き起こす無責任な性的行為は身体や生殖について学び、認識することで減少していきだろつと続けた。

	
<p>VOTU のチームリーダーは月経を経験している 1 人としてスタジオにいる女性スタッフ Atala 氏を例に挙げている。</p>	<p>テラーの Nakato 氏は Kikambwe ラジオスタジオで布ナプキンの作成方法を紹介した。</p>

2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下の通り放送した。

- ムベンデ県：Luna FM（1 日 6 回）
- ワキソ県：Voice Kiryagonja（1 日 10 回）
- ブタンバラ県：Voice of Butende（8 回）、Voice of Kikambwe（8 回）（各早朝 4 回、夜 4 回）

3. 対象校間の学び合い交流会の実施

ムベンデ県では 11 月 13 日に対象校間での交流会を実施した。交流会は対象校の中でも特に順調に活動を進めている St Mary's Gwanika 初等学校を受け入れ校として実施、2 時間半のセッションのなかで各校の教員や月経時の衛生管理クラブのメンバーたちはお互いに学び合いができるよう活動実施状況やこれまでの経験を共有した。

参加者は女子生徒 12 名、男子生徒 9 名、女性教員 9 名、男性教員 2 名の合計 32 名であった。また、Gwanika 初等学校を会場として選出したのが事業の活動状況が素晴らしいからである。



学び合い交流会に参加している生徒たち

ワキソ県では 11 月 16 日に Ssayi Bright 初等学校にて交流会を実施した。事業の活動において状況や経験談を共有すべく、Kitungwa 初等学校、Kitanda 初等学校、Kirolo UMEA 初等学校、Ssayi Bright 初等学校の 4 校が交流会に参加した。参加者は 7 名の男子生徒、18 名の女子生徒、1 名の男性教員、4 名の女性教員を含む合計 30 名であり、各校 3 名ずつの代表者が出席していた。



交流会に出席する参加者

ブタンバラ県でも対象校同士が知識量を競い合うことを目的に、全 10 校を対象とした交流会の実施を予定していたが、昨年度に一度実施したため、今回は手法を少し変え、以下の内容で実施した。

(1 校が別の 1 校を訪問し、2 校で交流をする。事前にこれまでの活動で得た知識を元に自分たちで 15 問ずつの質問を考え、お互いに質問し合う。多く答えられたほうが勝者となり、賞を得る。)

交流プログラムの変更を伝えつつ各校を回り、訪問側の学校には交通費を支給した。交流プログラムを通して事業の進捗状況を確認し、良い成績を収めている学校を把握することができた。また、参加者からは 10 校の中で勝利した 5 校が更に 1 位を争ってはどうかと提案があったがもともとはその様に設定していた。

訪問校

1. Kiwala Umea 初等学校 vs.
2. Lwamasaka Umea 初等学校 vs.
3. Kitagobwa c/s 初等学校 vs.

受入れ校

- Butende Umea 初等学校
- Butaalunga c/s 初等学校
- Nkokooma c/s 初等学校

4. Bule Umea 初等学校
5. Kayenje c/s 初等学校

vs.
vs.

Namwango c/u 初等学校
Ntolomwe Umea 初等学校



向い合う月経時の衛生管理クラブ

セッション後のグループ写真



セッション中、セッション後の Namwango 初等学校及び Bule 初等学校



Nkokooma 初等学校、Kitagobwa 初等学校のグループ写真

賞を受け取っている様子 (Nkokooma 初等学校、Kitagobwa 初等学校)

4. 対象校においてモニタリングの実施

ムベンデ県では11月21～22日に月経時の衛生管理トレーニング、月経時の衛生管理クラブの状況、布ナプキン作製トレーニングなどの活動の進捗状況を把握すること、また対象校間交流会で学んだことを活動に反映できているか確認することを目的に対象校を視察訪問した。

主な気づき

- 全 10 校で月経の緊急時用のナプキンや更衣室、洗面所などの月経時の衛生管理が実践できる環境が整っていた。
- 女子生徒たちは月経の問題に対して恥ずかしがることなく、必要な時には助けを求めることができていた。
- ほとんどの学校で 7 年生が初等部を終了し休暇に入ったため、月経時の衛生管理クラブの部員数が減少したが、その分新たに新入部員を募った。

課題

- 生徒数に対してミシンの数が少なく、布ナプキン作製トレーニングをうけられない生徒が多数いる現状が続いていること。保護者にミシンを追加購入への協力を働きかけることを計画している。
- Kasasa 初等学校、CAWODISA 初等学校、Katega 初等学校などでは布ナプキン作製に必要な材料が継続的に不足していること。
- 特に乾季は水不足の課題に直面していること。

ワキソ県では 11 月 21 日～22 日にプロジェクトオフィサーが対象校 10 校を視察訪問し、モニタリングを実施した。月経時の衛生管理トレーニング、月経時の衛生管理クラブの状況、布ナプキン作製トレーニングなどの活動の進捗状況の評価を主な目的とした。

主な気づき

- 多くの生徒が裁縫を完璧に習得していたこと。特に Kitanda C/U 初等学校と Ssayi Bright 初等学校にいた男子生徒は 1 日に 10 枚ものナプキンを確実に作製できていた。
- Ssayi Bright 初等学校を始めとする各校の校長は故障したミシンの修理に対して非常に協力的であった。

課題

- 布ナプキン作製に必要な材料の確保は全ての学校において課題であるため、保護者にも協力を求めている。
- ミシンの台数に対して使用を希望する生徒数が多すぎる。

ブタンバラ県では 11 月 2 日に衛生施設やカウンセリングセッションの状況把握を目的としたモニタリングを実施した。洗面所は清潔に維持されており、生理用品も備え付けられていた。洗面所の清掃には男子生徒も女子生徒も参加しており、活動が男女どちらにとっても好影響であったことが伺えた。また、Butende 初等学校では布ナプキン作製の様子を見せてくれた。



プロジェクトスタッフが更衣室の状況を点検している(Lwamasaka 初等学校、Ntolomwe 初等学校、Kiwala 初等学校)



トイレ建設の様子 (Kitagobwa 初等学校)

洗面所 (Kayenje 初等学校)



ミシンを用いた布ナプキン作製トレーニングの様子 (Kayenje 初等学校)

女性教員と更衣室のモニタリングをしている (Butende 初等学校)



ブタンバラ県チームの Nakato 氏が新たなハンドクラフトの技術をトレーニングしている様子 (Lwamasaka 初等学校)

月経時の衛生管理クラブとのグループ写真 (Lwamasaka 初等学校)

課題

- ほとんどの学校でナプキン作成に必要な材料が不足していること。
- 月経時の衛生管理クラブの活動にも必要な水が不足していること。

主な気づき

- ミシンの使用方法はもちろんのこと、自分自身を大切にすること、女子生徒を思いやること、周りの人を気にかけることなどを生徒たちはトレーニングを通して学んでいた。

5. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）

11月は生徒たちが長期休暇に入っていたためトレーニング希望者が多く、これまでで最も活動的な月となった。プロモーションセンターでは、11月中に35名に対しトレーニングを行い、155枚のナプキンを生産、10枚を販売した。また、交流会の際にクイズの賞などとして、50枚のナプキンを生徒たちに配布した。（3月からの累計／生産1,556枚、寄付150枚、販売502枚）

		
プロモーションセンターで作製したナプキン	布ナプキン作製トレーニングに参加している受講生	
		
プロモーションセンターでミシンの使い方を学んでいる受講生たち		

事業全体の効果的な影響

- ラジオトークショーのリスナーは学校の当事業の活動に感謝を示した。
- 対象校間での交流会で会場となった受入れ校は活動の会場となることを快諾してくれた。（ワキソ県・ムベンデ県）

課題

- モニタリング訪問の際は卒業試験や期末試験の準備期間であったため、十分な時間が取れなかった。（ワキソ県・ムベンデ県）
- 対象校間での交流会の日は大雨であったため、参加者が開始時刻に間に合わず、開始時刻を遅らせなければならなかった。（ワキソ県・ムベンデ県）
- 雨季のため道路の状態が悪く対象校を訪問するのが大変であったこと。（ブタンバラ県）
- 活動に積極的な生徒が更に技術や知識を向上できるように教員も努力をするべきである。
- 布ナブキン作製の方法は学べているが、作成に必要な材料の不足が課題である。
- 貧困の家庭が多く保護者からのサポートが十分に得られないこと。生徒たちが家庭で助けを求めても経済的な理由から断られてしまうことが多い。
- 教員たちがカウンセリングセッションや月経時の衛生管理クラブの監督、更衣室の管理を行うことに対して毎月の手当てを求めていること。
- 学校の活動が多く、クラブ活動に充てられる時間が限られてしまうこと。

教訓

- 保護者に対して今後も月経時の衛生管理について継続して啓発していく必要がある。
- 対象校間での交流会を通して参加者は新しい知識や手法を身に付けることができた。
- 月経で困っている女子生徒がいれば教員に報告したり、教員のところまで連れて行ってあげるなどして、男子生徒であっても女子生徒を手助けすることができる。
- 生徒たちは布ナブキンの作製方法だけでなく、月経中に互いに助け合うことを学んだ。

提案

- 対象校間での交流会は学びを共有する場として今後も継続して実施していくべきである。
- さらに多くのナブキンを作製していくための更なるミシンの設置を学校は希望している。
- 活動に携わっている教員が今後も意欲的に活動できるように手当てが必要であることを学校は訴えている。
- 布ナブキンの作製活動が継続できるように必要な材料の配布を希望している。
- 対象校となることを希望する学校が増加しているが、今回は 10 校のみの対象であったため、次回の事業で他の学校も対象にしていけることを期待している。